

## 「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」開催概要

- 1 開催日時 令和2年11月18日（水）午後3時30分から午後5時20分
- 2 開催場所 県庁議会棟、県内各地（オンラインによる開催）
- 3 参加団体
  - (1) NPO法人維新塾
  - (2) 食の情報発信に取り組むグループ
  - (3) みのわ町デリ
  - (4) 安曇野市豊科新田区
  - (5) あづみの不登校を考える親の会 ひらく
  - (6) 株式会社エムトラベル

### 4 出席議員

区 分	出 席 議 員
議 長	小池 清
副 議 長	小池 久長
広報委員	共田 武史、寺沢 功希、清水 正康、和田 明子
会派選出議員	(改革・創造みらい) 埋橋 茂人 (日本共産党県議団) 山口 典久

### 5 意見交換テーマ

「コロナ禍における新しい生活様式の定着について」

### 6 開催内容

各団体等の取組紹介、グループ毎による意見交換・懇談

### 7 参加者 27名（議員8名、参加団体等19名）



## ○開会

(司会：小池副議長)

定刻となりましたので、ただ今から「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」を始めます。私は、本日の進行を務めます、長野県議会副議長で広報委員会委員長の小池久長でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

## ○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(小池副議長)

それでは、長野県議会を代表いたしまして、小池清議長からあいさつ及び県政報告を申し上げます。それでは、小池議長お願いします。

(小池議長)

皆さん、こんにちは。本日は「『こんにちは県議会です』地域住民の皆様方との意見交換会」を開催いたしましたところ、参加団体の皆様方にはお忙しいところご参加をいただき、誠にありがとうございます。

本日は、私、それから、副議長、県議会の広報委員、また、会派選出議員が参加をいたします。今回は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、オンラインによる開催とさせていただきました。今年度は対面による意見交換会ができず、参加者の皆様にも準備等でお手数をおかけいたしました。一方、オンラインということで、画面を通じてではありますが、県内各地の皆様と同時につながることができました。初めての試みとなりますので、何かとご不便をかけるかもしれませんが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

開催に先立ち、最近の県議会の主な活動についてご報告させていただきます。

まず初めに、新型コロナウイルスについてです。

本年は、新型コロナウイルスにより、私たちの生活をはじめ、社会経済全体も大きな影響を受けております。県議会としては3月に「新型コロナウイルス感染症対策連絡本部」を設置し、これまでに9回会議を開催する中で、県の対応について、知事から説明を受け、県民の皆様方のご要望を知事に提言してまいりました。また、新型コロナウイルスの課題にスピード感を持って対応するため、通常の定例会に加え、臨時会や閉会中の委員会を通して議論を重ね、9月定例会では、「新型コロナウイルス感染症の拡大防止と社会経済活動の両立に関する意見書」を可決し、国に対して実現を求めました。

新型コロナウイルス感染症の状況は、日々変化しておりますが、今後も県内外の感染症の動向を注視しながら、様々な課題に対し、全力で取り組んでまいります。

次に、デジタル・トランスフォーメーション等に関する取組についてです。

近年、先端技術の活用の必要が高まる中、県議会においてもAIや5Gなど進化し続けるデジタル技術を活用していくことは重要な課題であると考えており、9月に「長野県議会SDGs・DX戦略研究会」を設置いたしました。勉強会などを通して議員の知見を深めるとともに、今後、県議会としての政策立案や県への提言などに役立てていくこととしております。

その他、10月9日まで開催された9月定例会の主な論点を2つ報告させていただきます。

1点目は、「長野県脱炭素社会づくり条例」についてです。

これは私たち議員から提案したもので、2050年度までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする、ゼロカーボンの達成を目標としたもので、全会一致で可決いたしました。年限を定めてゼロカーボンを盛り込んだ条例は都道府県初となります。この条例の制定を期に、持続可能な脱炭素社会づくりを県民の皆さん方のご協力をいただきながら、一層推進していきたいと考えております。

2点目は、県内に甚大な被害をもたらした今年7月の豪雨災害についてです。

被災した企業の事業再建に向けた支援や道路や河川の復旧事業の経費を可決いたしました。また、災害からの早期の復旧復興はもちろんのこと、今後の気候変動に備えたインフラ整備が重要であり、議会としても国に対策を強く求めるために意見書を可決し、先週11月10日には県議会を代表して、私と副議長、並びに各会派の代表の皆さん方と上京し、国に対して要望書の提出を行ったところです。このほかにも9月定例会では、信濃美術館を長野県立美術館に名称変更する条例を可決いたしました。

以上で議会の活動の報告といたします。

最後に、本日の「こんにちは県議会です」は、各地域で活躍されておられる様々な団体の皆様方に参加していただいております。皆様の活動を紹介していただき、その活動状況を踏まえながら、今回のテーマである「コロナ禍における新しい生活様式の定着」について、議員と意見交換させていただきたいと考えております。皆様からは忌憚のないご意見をいただき、有意義な意見交換となるようご協力をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

ありがとうございます。

## ○出席議員自己紹介

(小池副議長)

それでは、本日の出席議員から自己紹介をいたします。順次、私から指名しますのでお願いします。

はじめに、共田議員お願いします。

(共田議員)

こんにちは。県議会議員の共田武史です。岡谷市・下諏訪町選出です。よろしくお願いいたします。

(小池副議長)

次に、寺沢議員をお願いします。

(寺沢議員)

県議会議員の寺沢功希です。安曇野市選出です。よろしくお願いいたします。

(小池副議長)

次に、清水議員をお願いします。

(清水議員)

清水正康です。上伊那郡選出です。よろしくお願いいたします。

(小池副議長)

次に、和田議員をお願いします。

(和田議員)

皆さん、こんにちは。長野市・上水内郡選出の和田明子です。よろしくお願いいたします。

(小池副議長)

続いて会派の方から、埋橋議員をお願いします。

(埋橋議員)

長野市・上水内郡選出の埋橋茂人です。委員会は、産業観光企業委員会です。よろしくお願いいたします。

(小池副議長)

最後に、山口議員をお願いします。

(山口議員)

こんにちは、長野市・上水内郡選出の山口典久です。よろしくお願いいたします。

(小池副議長)

出席の議員は以上であります。

本日ご参加いただいた団体、グループの皆様につきましては、恐れ入りますが、お手元の出席者名簿の配付により御紹介に代えさせていただきたいと存じます。

本日の、「こんにちは県議会です」は、このコロナ禍において、新しい生活様式の定着に向けて、日頃、様々な分野で活動に取り組んでおられる地域の皆様から、活動の紹介をいただき、それらを踏まえながら、意見交換を行うことで、今後の議会活動に活かしていくということ、併せて、参加の皆様にも県議会を身近に感じていただきたい、という趣旨で行うものです。

なお、広く県民に広報するため、本日の概要については、後日、県議会のホームページに掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。

## ○取組紹介

(小池副議長)

続きまして、本日ご参加いただきました各団体の代表の方から、取組の概要や活動について発表をお願いしたいと思います。

進行の都合上、1団体3分以内でお願いいたします。なお、事前に参考資料をお送りしてありますので、適宜ご覧いただきながらお願いします。

まず、NPO法人維新塾の林靖久さん、お願いいたします。

(NPO法人維新塾)

皆さん、こんにちは。NPO法人維新塾理事長をしております林と申します。よろしくお願いいたします。

私たちの団体は、基本的には、まちおこしの事業を行っています。資料は昨年度の活動報告を載せていただきました。ここにあるララビジョンというのは、岡谷の駅前ビルの活性化を市のほうから委託されて、松本山雅の試合とかを流して人を呼ぶ事業をやっております。あとは太鼓まつりとか、きつね祭とか、地元のお祭りなどで出展等をしている団体です。あとは個人の勉強会、人前でしゃべる練習とか、そういう感じの勉強会を含めてやっております。以上です。

(小池副議長)

ありがとうございました。

次に、食の情報発信に取り組むグループの井崎由華さん、お願いいたします。

(食の情報発信に取り組むグループ)

食の情報発信グループの井崎と申します。よろしくお願いいたします。

私たちは、特に南信地域で食の情報発信に取り組んでいる個々の活動になりまして、一応グループとして参加させていただいていますが、一緒に何かを活動しているというわけではなくて、このコロナの中で、特に食に関して直接的なつながりみたいな部分でできなくなったところを、積極的に情報発信をした面々ということで今回参加させていただきました。代表から説明ということですが、活動がそれぞれ別ですので、松本、田中、高橋の順に30秒くらいで活動の説明をさせていただきます。

伊那市地域おこし協力隊の松元と申します。

今回コロナ禍において、4月15日からSNSのフェイスブックで、いーなイーツという名前のグループをつくり、そちらで飲食店の方もそうですし、お店のファンの方々が自由に投稿できる場所をまちの皆さんと話し合っ立ち上げました。それについて今日はいろいろとお話ができたらと思っています。

田中です。私も松元さんと同じく伊那市地域おこし協力隊と、あと在宅の仕事を支援している会社に属しておりまして、コロナ禍では松元さんのいーなイーツと連携したウェブサイトでの情報発信やアンケート集計などでお店に応援メッセージを届けたり、在宅ママチームでマスクを手作りして、今日も出られていますけれども、みのわ町デリの方と連携とか、そういうことをさせていただきました。よろしくお願いします。

上伊那郡宮田村を拠点に食育推進活動をしております「食育Mogu Mogu」というグループの代表をしております高橋です。コロナ禍で学校が休校になったことで、お母さんたちが毎日の食事づくりにとても疲弊しているという声を聞きまして、SNSで簡単にできるレシピの紹介や献立提案サービスをしております。

以上、食の情報発信グループになります。よろしくお願いします。

(小池副議長)

ありがとうございました。

次に、みのわ町デリの大内学さん、お願いいたします。

(みのわ町デリ)

僕らは上伊那郡箕輪町で町デリをやっております。食に関わらず、町のインフラ、クリーニングだったり、電気屋さんだったり、そういうものも全部含めてテイクアウト、デリバリーサービスを行うというものを立ち上げています。今それ自体のサービスを継続中ですので、今後も世の中に合わせつつ、いろいろなサービスを取り入れて実行していこうと思っています。以上です。よろしくお願いします。

(小池副議長)

ありがとうございました。

次に、安曇野市豊科新田区の村越勝さん、お願いいたします。

(安曇野市豊科新田区)

皆さん、こんにちは。安曇野市は、皆さん御存じのように長野県の中心辺りにあります。新田区もその庁舎のある中心辺りにあります。

新田区にはいろいろな施設がありますが、例えば近代美術館がございます。その豊科近代美術館では、今年日展が開催される予定だったのですが、残念ながら日展は中止となってしまいました。それでそのほかにもいろいろなスポーツ大会とか、お祭り、運動会、そんなものが全部中止、または自粛になってしまって、ふだんの地域のつながりがどんどん断たれてしまっているような状態です。

それで新田区は加入している総世帯数が1,700、人口が3,700ほどで、安曇野では一番大きな自治区ですが、今年から安曇野市の要請によって部制度というものを運営しております。その部制度の中で、特に防災、それから、総務部というものが今年、コロナ禍でも何とか活動しております。

私は、総務部のほうで主にインターネットの広報をやっております。皆さんがリアルに会えない状態なので、何とか情報交換ができないかとか、ホームページで特に今、危機管理の情報ですね、それを伝えていくことで、誰でもできる簡単なホームページを目指して発信をこの7月から始めております。

それで今回は防災のほうから1人と、それから、消防団第2分団の団長さんに来ていただいて、コロナ禍での危機管理、特に防災の状況をお話ししていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(小池副議長)

背景にまでお気遣いいただき、ありがとうございました。

次に、あづみの不登校を考える親の会ひらくの山本愛さん、お願いいたします。

(あづみの不登校を考える親の会ひらく)

安曇野市のひらくの山本と申します。今日はよろしくお願いいたします。

私たちは、行き渋り、学校になじめない、いじめや不登校、登校拒否、ひきこもりなどの子を持つ方、応援団の集まりの親の会です。

コロナで私たちの活動も会合ができなくなって、集まれなくなって、しばらく活動も自粛していたのですけれども、学校が休校になって、その後学校に行けていた子も行きにくくなったり、不登校が増えてきているなどという話を聞くようになったので、私たちもまた活動を再開しております。活動は月に1回、公民館を開放し、自由に集まって話ができたり、子どもたちがつながれる場所を提供しています。

今年の大きな環境変化は学校の多様化時代の幕開けだなど個人的には考えています。学校が全てではなくて、積極的に行かない選択肢もある。登校しなくても学ぶことができる、そのような意味で学校に行かないことを選択している子どもたちや家族にとってはよい追い風になっているような気がしております。

ただ一方で、格差の広がりなどが問題でもあったりしまして、都会と地方だとか、公立と私立、学校によっても様々な環境の格差が出てしまっていて、状況が厳しいとあって、子どもによって差が出てはいけないなども感じております。そのためには社会を挙げて、子どもたちや学校現場を応援していくことが求められていると思いますので、この場をお借りして勉強させていただいたり、ご意見をいただきたいなどと思って参加しております。よろしくお願いいたします。

(小池副議長)

ありがとうございました。

最後に、株式会社エムトラベルの丸山秀之さん、お願いいたします。

(株式会社エムトラベル)

丸山と申しますが、よろしくお願いいたします。

旅行会社とバス会社をやっています、コロナ禍の中でどう対処していくかということで今回参加させていただきました。

安曇野市に旅行会社が、うちを入れて5社ありまして、今、地元の方々向けのタクシー送迎付きプランの新しいツアー企画をつくるなどして、旅行会社の先輩と一緒に安曇野市を活性化しようと計画をしているところです。

コロナ禍で、地元のバス会社を利用して活性化できるように、安曇野市の支援プランがいろいろ出ていて、そちらを活用しながら、安曇野市の皆さんを元気にしていこうということで計画しています。簡単ですが、こんな感じで安曇野市を盛り上げていこうと思いますので、よろしくお願いいたします。

(小池副議長)

ありがとうございました

## ○グループディスカッション

(小池副議長)

それでは、ただいまご紹介いただきました内容も踏まえながら、コロナ禍における新しい生活様式の定着について、4つのグループに分かれての、意見交換を始めたいと思います。

それでは、35分間のグループディスカッションを行いますので、事務局の方でグループ分けをお願いします。

## 【事務局留意事項等説明】

(AからDグループへの切り替えについて説明、説明の後、グループディスカッション開始)  
(グループディスカッション)

### ○意見交換感想発表

(小池副議長)

皆さん、途中になってしまったり、時間もないものですから大変申し訳ありませんでした。後ほどフリーディスカッションのときにお話をいただければと思います。大変盛り上がりまして、ありがとうございます。

これから意見交換につきましては、各グループを代表して、広報委員の皆様から意見の内容や感想を発表していただきたいと思います。

まず、Aグループから、寺沢委員をお願いします。

(寺沢委員)

それぞれの団体の取組、またコロナになってからの新たな取組等を発表いただき、意見交換をさせていただきました。それぞれの取組、やはり情報発信という面において、特に行政の協力が欠かせないということで皆さんが一致しておりました。

それから、こういう会がなければ、それぞれの取組をなかなか知ることができなかったということですので、まさに情報発信を、我々議員も含めて協力してやっていかなければいけないなという感想です。

それから、誹謗中傷の関係ですが、今、詳しく感染者の情報を流すことがかえって誹謗中傷につながるのではないかとのご指摘もいただきました。それも含めて、今後の発表のあり方と誹謗中傷、人権問題に関しては、議会あるいは行政を挙げて引き続き取り組んでいかなければいけないと思ったところです。以上です。

(小池副議長)

次に、Bグループから、和田委員をお願いします。

(和田委員)

皆さんコロナでそれぞれ影響があったんですけども、地域で食の情報発信をしたり、子どもたちの不登校や、いろいろとそういうことに関わってきた中で、休校が続く、そういう子ども、親御さんへの支援とか、積極的に地域の中で働きかけることで、新しいつながり、結びつきができてきたということも話が出てとても興味深かったです。そういう中で、それぞれお互いにどんな取組をしているのかを、今日、初めて参加した中でお互いに聞き合うという場面もでき、交流もできて、とても活発に情報交換できました。

それで共通していたことは、地域の魅力を再発見して、地域に返していくという取組がとても特徴的だったなと思いました。旅行や観光に携わっている中で、厳しい状況だけれども、新しいプランを立ててやっていて、そのプランについての感想もほかの皆さんからも聞けて、これなら頑張っていけそうだというようなこともあり、取組はそれぞれ別々なことをやっていて、コロナの影響を受けたけれども、地域の中で自分たちの周りから、自分たちが魅力を発見して頑張っているところ、今回は、またある意味、新しい取組ができてきているなということを感じました。以上です。

(小池副議長)

次に、Cグループから、清水委員をお願いします。

(清水委員)

Cグループは、地域の活性化の活動を行っている、また、そういうことも含めて飲食店で頑張っているグループ、地域の防災ということで豊科の新田区の地域活動についてお話をいただける方にご参加いただきました。

山口議員からお話があったのですけれども、コロナでも前向きにチャレンジしていることとか、何かないかという話の中で、それぞれ取り組んでいること、飲食店で単独ではなくて、例えば、忘・新年会に向けて幾つかの店舗での料理をパーティ方式で食べられるようなことを受け付けて、各家庭に届ける取組を考えていたり、また、自分のところの味をおいしくそのまま食べられるようにレトルトを研究していったりとか、地域に名物がないということで、春に向けて名物料理を開発しようというような取組のお話が聞けました。

そういった中で、明るく前向きに、こういう中だけれども取り組んでいこうというお話が、お一人の方からありました。こういう時期だからこそ、SNSでさらに多くの人とつながることができたという話もありまして、明るく前向きに取り組む姿勢が大事ななと強く感じました。

他のグループでもありましたが、県にお願いしたいことということで、情報の発信をそれぞれ取り組む団体等がありますので、そういう情報をもっと積極的にいろいろな方に届くようにしてほしい、との話がありましたので、ぜひ課題として取り組めればと思いました。以上です。

(小池副議長)

最後に、Dグループから、共田委員をお願いします。

(共田委員)

私たちのグループでは、まちづくり団体とひきこもりの方の支援という問題の話でした。

まず、ひきこもりについてですが、今回、全国的に一斉休校したおかげで、各家庭で家に子どもたちがいなければいけないという状況があり、子育て支援とかその重要性が改めて浮き彫

りになったときだと思っていた。それをきっかけに、これから子どもの教育の場とか、そういうものを変えていかなければ、考え直さなければいけないタイミングになっているのではないかというお話でした。

また、NPO法人の方々のまちづくりでは、人を集めることができなくなり、今までと違う形を目指さなければいけない。そして国では、Go Toをやったり、県でも様々な経済支援をしているが、これについては一時的なものだということで、3年や5年先のスパンで、まちづくりとか経済というものを考えなければいけないというお話でした。

その中で、埋橋議員から、子どもたちの居場所や高齢者の居場所、そういうところにスポーツとかを絡めて、民間の方の力を借りながら、いろいろな活動ができれば、中心市街地、経済の発展に寄与する可能性がある、という前向きな議論が起きました。結果的に、今回、安曇野市もそうなのですが、インバウンドに頼っていたところはダメージが大きかったということで、これからは人々の集まる場所みたいなものをつくりながら、経済発展を、また、子どもたちの居場所というものを考えなければいけないというご意見にまとまりました。

また要望として、子どもたちに対していろいろなオンラインでの授業だったり、学校に行かなくても卒業できるような仕組みというものを、いま一度進めてほしいという貴重なご意見をいただきました。以上になります。

(小池副議長)

それでは、残りの時間で、ご参加いただいた皆様やほかの議員の皆さんからもご意見、ご感想を頂戴したいと思いますので、お願いします。

ただ、少し画面の状況が悪いので、挙手が見えなかったときには、マイクにてお名前を言っていたら、ご指名申し上げますのでご協力いただきたいと思います。

では、埋橋議員、どうですか。少し感想を含めて。

(埋橋議員)

今、グループ代表の共田委員がお話をしたことに尽きます。

少し視点を変えますと、まちづくりをやっている経営者の皆さんと不登校、登校拒否の親御さん、または支援者の皆さんの組合せで、最初はどんな組合せだということで違和感や戸惑いがありだったようですけれども、話しているうちに、同じように地域の課題を背負っているということで、話の底に流れるものを同じようにお感じになられていて、そういう意味で本当に珍しい組合せでしたけれども、成果は共田さんの司会があつてうまくいったと思います。

中でも、学校で不登校、登校拒否の皆さんは、今まで学校が基本的に絶対だという前提だったものが、コロナで一斉休校になったことでかなり相対化され、そしてその中で結果的に行かないことも学びだし、フリースクールでやることも学びだし、多様な学びの場をちゃんと位置づけて、認めて、これからもやってほしいというお話をいただきました。

また、空いた商業スペースをいろいろな形で、今、場所の確保が大変だそうですので、このようなことを利用されて、おじいちゃん、おばあちゃん、お子さん、お父さん、お母さん、そしてまさにパブリックビューイング的なことも考える必要があるのではないかというお話をいただきました。

コロナを全て災いにするのではなく、新しい時代に少しでもこれがつながっていくようなこと、特に今世界的にSDGsと言っていますから、これと本当に流れるものは同じだと思いますので、そんなことを感じた、短い会議でしたけれども、大変ためになりました。皆さん、ありがとうございました。

(小池副議長)

ありがとうございました。どなたかいらっしゃいますか。

新田区の村越さん、よろしくお願いします。

(安曇野市豊科新田区)

今、伺ったお話は大変有益で、こういう会議は必要かなと思います。ふだん会えない方からのいろいろな情報をいただいた、いろいろなお話を聞いて大変うれしく思いました。

私は今回防災ということで出ているのですが、防災の専門家ではないので、ふだんやっている自転車について述べたいと思います。これはコロナの時期でも、安曇野市にはやまびこ自転車道というのがありまして、毎日自転車に乗って健康のために走り回っています。そうすると何を気づくかといいますと、先ほどお話のあった地域の魅力を再発見ということになるのです。今私の後ろに背景として入れてあるのは、安曇野市の穂高狐島にある高橋節郎記念美術館の10日ほど前の紅葉ですが、こういう瞬間の美しさであったり、それから、お店に行って食べたことのないおいしいものを食べたりとか、やはり引き籠っては見られない、味わえないものがいっぱいあるものですから、健康に注意しながら、そういう流れを県にもつくっていただきたいということで、具体的にはサイクリングロードの整備をもっと推し進めて、マイクロサイクルツーリズムというようなものを進めていただきたいと思います。以上です。

(小池副議長)

ほかにどなたか。ひらくの山本さん、どうぞ。

(あづみの不登校を考える親の会ひらく)

ひらくの山本です。この新型コロナウイルスの影響で学校に行かない選択肢が一段と広がりました。緊急事態宣言が解除されて学校が始まっても、やはりストレスをためている子どもさんがますます多くなっているということも耳にしております。

今回こちらに参加させていただきまして、議会の方にお問い合わせが来ております。聞いて

ください。

学校の在り方の多様化も、子どもたちのストレスやプレッシャー軽減にはつながっていると考えております。学校復帰が最終目的ではないということも県としても理解していただけたらうれしいなと考えています。今回の状況で、多様な学びを認めて、どの環境にいる子どもも平等になるように、例えば、学校への公的支援や在宅で学んでいる子どもたちの支援も前向きに議会で検討していただきたいなと思っております。よろしく申し上げます。

(小池副議長)

ありがとうございました。では、ひらくの山崎さん、お願いできますか。

(あづみの不登校を考える親の会ひらく)

ひらくの山崎です。山本さんが全て言ってくれたので、それにプラスして、県全体の話をしさせていただくと、学校に行かない子や、あと地域のつながり、さっき言った高齢者ですね、Dグループで話したのですけれども、高齢者たちが地区の空き店舗を使ってスポーツ観戦をするという、いろいろな人が集まるところにスポーツがコラボしていく、また、そこで新しい出会いが生まれて、新しいつながりができる。これを県内で僕はまずはやるべきだと思うのです。どうしても皆さん県外のお客を呼ぶとか、インバウンドで海外のお客を呼ぶという話になりがちだったので、最初は各地区で、各市で、なおかつそこから広がっての中信地区、南信、県という単位で、できるだけ県の中でそういうことを繰り返しやっていると、いろいろな方々につながって活性化されるのではないかと考えていますので、ぜひ、行政のサポートをお願いしたいと思います。スポーツ観戦をそういうところでもうまく活用してもらっていただけたらと思います。以上です。

(小池副議長)

ありがとうございました。まだお時間がありますので、どうぞご遠慮なさらずに、せっかくの機会ですから。新田区の三枝さん、どうですか。

(安曇野市豊科新田区)

今、お話も新田区としてのことを考えていたのですけれども、実は私、学校へ勤務しております。庁務員をやっております。今、食とコロナの関係、それと学校のことをまとめて聞いた中で、私も特に思ったのは、やはり学校における消毒、3密を避けるために非常に気を使ってやっております。換気などいろいろやったり、消毒ボランティアの方にも来ていただいている状況です。

休校時に一番困ったのは食の関係でいいますと、給食がなくなったということが、特に長い期間続いたので、大変な時期を過ごしたなと思いました。以上です。

(小池副議長)

良いご意見をいただいて、背景もすばらしく、ありがとうございました。

まだお時間がありますから、どうぞご遠慮なさらずに。食の情報発信の松元さん、どうですか。

(食の情報発信に取り組むグループ)

本日は食の情報発信ということでお話をいろいろさせてもらったのですが、今後の課題という意味では、本当に今もコロナの感染者が全国的に増えてきていて、落ち着いたとは言えない状況の中で、どういう動きをしていったらいいのかというところが見えない状況です。

それで伊那市だったり、この周辺でも、例えば食でいうとデリバリーだったり、そういうサービスというのも生まれ始めてはいるんですけども、本当に今後の状況によって、どうやっていかなければいけないかというのは、例えば国の制度も今後も臨機応変にといいますか、コロナが結構深刻だったときにはいろいろ手厚く助成金だったり出してくださったのですが、今後もそれが終わりではなく、その時々に合わせて適宜いろいろな場所に迅速に補助とかしていただけるようになったらいいなと感じております。すみません、ちょっと抽象的ですが、このような場を設けていただいてありがとうございます。

(小池副議長)

ありがとうございます。山口議員どうですか。

(山口議員)

今日はすごく大事なことを教えていただいたなと思っています。今度のコロナで絆が断ち切られたり、失われていく中で、改めて人と人との絆の大切さというものを多くの方が実感されて、今日、参加された方がこのコロナをきっかけにして新たな絆を広げ、自分自身も元気ももらって、わくわくして毎日暮らしている。この話をお聞きしまして、今、多くの人が絆を求めている中で、こういう取組を県議会や行政でますます発信していくことは、たくさんの方を勇気づけるのだろうな、希望を開けるのだろうなということも感じました。そんな点に留意して、これからも取組ができればよいと感じたところです。ありがとうございます。

(小池副議長)

ありがとうございます。

まだご意見のある方いらっしゃいますか。よろしいですか。みのわ町デリさんどうぞ。

(みのわ町デリ)

先ほどいろいろなグループでお話をさせてもらったのですが、箕輪町は非常に元気でやっていますので、もし何か参考にとか、自分の市町村、各市町村、各業種で落とし込めるこ

とがあるなら、ぜひ箕輪町に来ていただいて、私どももそういうところに協力していくので、ぜひよろしくをお願いします。待っています。ありがとうございます。

## ○議長所感

(小池副議長)

ありがとうございます。大変元気が出ました。ほかにいらっしゃいますか、よろしいですか。ご意見もたくさん出していただいて、ありがとうございました。では、意見交換をここで終わりにさせていただきます。

最後に、小池議長から、今回の意見交換会を踏まえての感想とお礼のご挨拶をお願いします。

(小池議長)

今日は県内各地から大勢の皆様方に、「こんにちは県議会です」ということで開催いたしましたところ、ご参加いただきありがとうございます。また、熱心なお話をいただき感謝を申し上げたいと思います。

長野県議会では、議会基本条例をつくりましたが、地域の皆さんと積極的にお話をしているという中身の条例でありまして、今回の意見交換もその一環として実行させていただいたところでございます。このコロナ禍において、新しい生活様式の定着に向けた様々な取組に関してお話をいただいたわけですが、コロナの影響がどういったものか、なかなか分からない、こういう不安の中で、皆さま方がそれぞれの立場で工夫をされ、積極的にいろいろなことに取り組まれてこられ、また、そういった中で新たな発見があったり、新たな人と人とのつながりもつくってこられ、今日までやられてこられたことに、私どもも大変勉強になりましたし、また、敬意を申し上げたいと思います。

コロナの感染を防止しながら生活をしていく、あるいは活動していくにはどうしたらよいか、なかなか難しい点もあるわけですが、そうは言っても、しっかりと生活を守らなくてはならないですし、経済も、働く皆さん方のご支援もしていかなくてはならないという状況が続いております。私どもも新たな生活様式をしっかりと見据えながら、取組をさせていただきたいと思っておりますし、その中でお互いに協力をして乗り越えてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

今日は、本当に貴重なご意見をお聞かせいただいたことに感謝を申し上げます。また、今回はオンラインによる開催ということで、慣れない点などあったかと思っておりますけれども、ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ○閉会

(小池副議長)

小池議長、ありがとうございました。

以上をもちまして、「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」を終了いたします。参加者の皆さん、誠にありがとうございました。

なお、アンケートにご協力いただきたいと思いますので、後ほど、事務局からメールをお送りいたしますので御協力をお願いいたします。本日はお疲れさまでした。